



2008年8月5日

コンソールサーバ Passport シリーズと SPARC Enterprise T5120, M5000 との接続検証結果報告書

ディジインターナショナル株式会社

1. 検証内容

コンソールサーバ Digi Passport 32 Dual AC Power と SPARC Enterprise T5120、M5000 との接続検証を実施いたしました。

2. 検証装置

コンソールサーバ Digi Passport 32 Dual AC Power(P/N 70002279)



接続対象サーバー

SPARC Enterprise T5120 with Solaris 10 OS 5/08

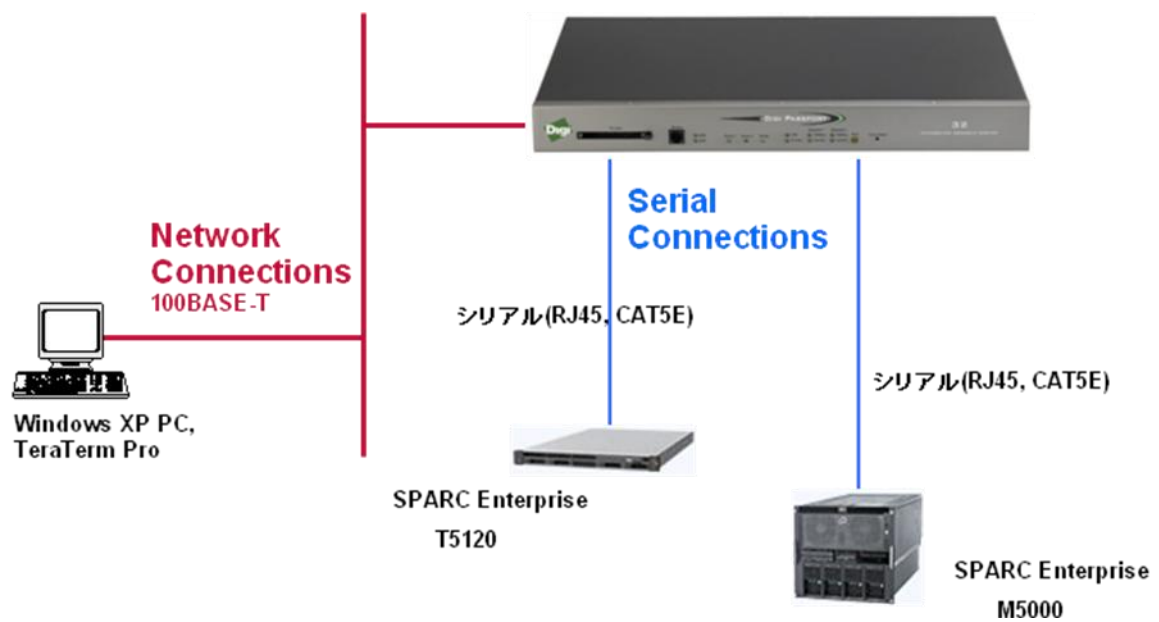
SPARC Enterprise M5000 with Solaris 10 OS 5/08

3. 検証日時と検証場所

検証日時： 2008年7月15日 13:30 ~ 16:00

検証場所： 富士通株式会社 プラットフォームソリューションセンター

4. 検証実施構成図



5. 検証内容とその結果

Windows XP PC より TeraTerm Pro にて Ethernet 経由で telnet、SSH でコンソールサーバー PASSPORT 32 に接続し、シリアルケーブル(RJ45, CAT5e) 経由で各サーバーに接続。

検証内容	結果	
	T5120	M5000
ILOM 操作 (telnet, SSHv2)	○	-
XSCF 操作 (telnet, SSHv2)	-	○
OS 操作 (Telnet, SSHv2)	○	○
Passport 電源 ON/OFF Solaris が停止しないことの確認	○	○

※ ○ は問題なく操作ができること。- は該当しないことを意味しています。

6. T5120 検証手順概略

- Passport の任意のシリアルポートと RJ45 の管理シリアルポート(SER MGT)を Category5E ストレートケーブルにて接続
- ILOM CLI に Teraterm にてアクセスし、ログイン後、システムコンソールに接続
- Solaris OS を起動
- OS を停止し、OK プロンプトに戻り、#.エスケープシーケンスを実行
- ILOM CLI でシステムを正常に停止

7. M5000 検証手順概略

- Passport の任意のシリアルポートと XSCF ユニットの RJ45 シリアルポートを Category5E ストレートケーブルにて接続
- XSCF コンソールに Teraterm にてアクセスし、ログイン後、ドメインコンソールに接続
- Solaris OS を起動
- OS を停止し、OK プロンプトに戻り、#.エスケープシーケンスを実行
- XSCF でシステムを正常に停止

8. お問い合わせ先

ディジインターナショナル株式会社

営業部

TEL: 03-5428-0261

FAX: 03-5428-0262

E-mail: mail@digi-intl.co.jp

URL : http://www.digi-intl.co.jp/